

小さな命

中 一

「あつ、また大人の手で小さな命が失われてしまったんだ。」

テレビから幼児が虐待され、亡くなってしまったニュースが流れてきた。このニュースを見ながら私は二つの出来事を思い出した。

一つ目はスパーでの出来事だ。

「ママ、ごめんなさい。」

と、スパーに入った私の耳に、三歳くらいの子が泣き叫んでいる声が入ってきた。その声の方を見ると母親にすがりついて泣いている子供が目に入った。私は何事かと、目を見張った。

「うるさいんだよ。ついて来るな。」

と怒鳴りつけると子供を突き放し、振り向きもせずスパーを出て行った。子供は慌てて母親を追いかけて、スパーを出て駐車場に飛び出していった。車にぶつかってしまわないかと心配になり子供の後をそつと追いかけて行くと、母親は振り向きもせず車に向かっていく。その様子に腹立たし

さを感じた。子供が親に追いつくと子供に何やら怒鳴りつけ、背中を思いつき叩くと車に乗せて走り去って行った。あの子は家に帰ったあと、だいたいじょうぶだったのかと心配した。

二つ目は、三歳の子供がうさぎ小屋の中に入れられ、食事は二、三日に一回しか与えられず、三か月後に亡くなってしまったという事件だ。うさぎ小屋の中からどんな思いで親のことを見ていたのだろう。悲しくて、不安で、辛くて、怖くて：どんな言葉でもその思いは書き表すことができない。

児童相談所に寄せられる相談件数は、この二十四年間で八十倍に増え、一年間で虐待によって亡くなる子供は五十人に及ぶという。この数字は一週間に一人の子供が亡くなるということを表している。私が中学校で友達と勉強や部活を行っている間にも、消えていく小さな命があるのかと思うとたまらない気持ちになる。希望や夢をもってこの世界に誕生する、輝く全ての命は、皆平等に守らなくてはならない命なのだ。それなのにこんなに悲しい形ですぐに亡くなってしまふ命があつてよいのだろうか。

このことにより、小さな命を守るために私は二つのことを考えた。

一つ目は、これから親になる大人たちに、命の大切さをもう一度しっかりと伝えるということだ。ゲーム社会で大人になった人たちは、人の命の大切さを本当に理解しているのか、改めて考えるべきであると思う。

二つ目は、幼児は大人の思うようにいかないことがたくさんあるということだ。時には泣き続け、時にはわがままだと言って言う。しかし、どんなに小さな子供でも考えがあり、心があり、感情があるのだ。幸せに生きていく権利のある一人の人間であるということをしつかり伝えたい。

私はまだ中学一年生のため、幼児虐待をなくす力はない。しかし、中学生という立場で、幼児虐待にあっている子供たちを救うために、身近な人との関わり合いから、何か働きかけることはできないか考えた。もし私の周りにあざがあつたり、元気がない人がいたりしたときには、そつと声をかけたい。そして、虐待をされていたら相談にのり、信頼できる大人に伝え、虐待を防ぐことを働きかけていきたい。なぜなら、虐待連鎖といつ

て、虐待を受けていた子供が親になると、今度は自分の子供を虐待してしまうことがあるからだ。しかし虐待を受けているときに声をかけて力になつてくれる友人や信頼できる大人がいれば、心の傷はいやされて、虐待連鎖を断ち切ることにつながるのではないかと私は考える。幼児虐待をなくすのはとても時間のかかる大変なことではあるが、積極的に働きかけていきたい。そして将来は、一つでも多くの命を救い、守り育む社会を築ける力のある大人に私はなりたい。